



ごはんお米とわたし

作文・図画コンクール



美咲ちゃん
©みんなのよい食プロジェクト

課題 作文・図画 両部門共通

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関する思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

「国消産（こくしょうこくさん）」とは、自分たちが食べる食材は、できるだけ自分たちの国でつくるという考え方です。詳しくは特設サイトからご覧いただけます。



しめきり日 令和6年9月12日(木) 必着

応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学校・中学校に在籍する児童・生徒。

応募・問い合わせ先
JA埼玉中央会 JA支援部農政・広報・組合員組織担当
〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-12-9 TEL.048-829-3307

応募規格

- (枚数・大きさ)
- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原簿用紙4枚以内、または1マス目の大きい原簿用紙で800字以内)
 - 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原簿用紙3枚以内)
 - 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原簿用紙4枚以内)

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。)
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生 (画材は特に制限しません。)

賞

内閣総理大臣賞	作文・図画部門各1名	計2名
文部科学大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
農林水産大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
全国農業協同組合中央会会長賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
優秀校	各部門各部門ごとに15名	計90名
奨励校	内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校	計14校

*各部門には審査基準がありますので、詳細については上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

主催：農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会／全国農協観光協会
 後援：文部科学省／農林水産省／こども家庭庁／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会 (NHK)／全国連合小学校校長会／全日本中学校長会／(公社) 全国学校図書館協議会／(公社) 日本PTA全国協議会／(公社) 米穀安定供給確保支援機構
 協賛：全国農業協同組合連合会／全国公共経済農業協同組合連合会／農林中央金庫／(一社) 家の光協会／(株) 日本農業新聞／全国厚生農業協同組合連合会／(一社) 全国農協観光協会



本コンクールは、みんなのよい食プロジェクトの一環として取り組んでいる事業です。過去の受賞作品は、JAグループHPからご覧いただけます。

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをうけ、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



美味ちゃん ©みんなのよい食プロジェクト

＜過去の受賞作品＞ JAグループHP (<https://life.ja-group.jp/education/contest/>)でもご覧いただけます。
※学年は受賞当時のものです。

図画部門

第46回内閣総理大臣賞



「水田の帰り道」

群馬県太田市立沢野小学校5年
吉江 小浜さん

第47回内閣総理大臣賞



「みんなで稲刈り」

佐賀県佐賀県立武雄青陵中学校3年
高森 薫さん

第48回内閣総理大臣賞



「カいっばい炊きあがれ」

埼玉県狭山市立山三小学校6年
津久戸 花実さん

作文部門

第48回内閣総理大臣賞

今年の秋早目の稲刈りが始まるライバル県も生産量が少しでも多くあってほしい。

毎日の食卓に出てくるごはん。僕はそれを当たり前のように食べていた。しかし僕の家の食卓にあがるまで、そのご飯はたくさんの方が必死にだ。お米を作る農家の方々は、天候に気を遣いながら頑張っている。そして、その管理をサポートする人達も農家の人達と同等な情報を流すように仕事に取り組んでいる。他にも僕の知らない所で、お米の生産のために働いている人もいるのだろう。そう考えると、食べ物を作ってくれる人に感謝しなければいけないと僕は改めて思った。

高温の中で作られた今年のお米。農家の人達にとっては生産が難しい年になった。だからこそ大切に食べなければいけない僕は思う。

高温による被害が出ていることが分かった。新潟県のホームページを見たが、僕は農業関係でこんなページがあるんだなと感心した。そのページには農産園芸課の情報が載っている。美味しいお米を作るために、陰でこんな努力があった事を僕は初めて知った。秋田県はどうかだろう。僕は秋田県の稲作情報について検索したとすると秋田県でも同じように高温対策情報が載せられていた。僕はその画面をしばらくの間、ずっと見つめていた。

ところが、この異常気象はお米にも大打撃を与えているらしい。秋田県の新潟に、由利本荘市では、水不足で稲に実るはずのお米の量が激減している。また、その田んぼの持ち主らしい農家の人が暗い表情で稲穂を手にしている新聞もあった。

今年の秋田県の夏は干炎続きだった。七月の豪雨を始めとし、その後、異常な暑さが続いた。僕の通っている中学校でも、夏休み中暑害対策のために部活動が一週間中止になつたくらいだった。熱中症にならないよう僕は無理な外出をひかえた。そのため、今年の夏休みは何となくぼつとしない感じで終わった。全く―僕は真空中の中まぶさまぶさ照りつける太陽を恨めしく思った。中学校生活最後の夏休みが奪われてしまったように思えた。

しかし、今年「画県のお米がピンチになつている。異常気象により、秋の収穫が危ぶまれているのだ。

秋田県のお米は「ライバル」と呼ばれている。その理由は、画県とライバル県である新潟は「コシヒカリ」という品種で全国に沢山のファンがいる。特に新潟産の「コシヒカリ」は信譽とついでいくらいのファンがいる。しかし、そうした新潟県の独走体制に秋田県も黙っていない。秋田県は「あきたこまち」に続き「サキホコリ」という品種を開発し、全国のお米ファンの胃袋をつかんだ。より美味しいお米の品種を開発するために、画県は切磋琢磨しながらこれまでずっと頑張ってきた。だから画県は良きライバル関係にある。僕はそう思っていた。

「ライバル」

秋田県東成瀬村立東成瀬中学校3年
高橋 凜太さん

応募総数

第48回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

作文部門：30,649点 図画部門：42,943点

【全国審査会】

作文本審査会：2024年11月12日(火)
図画本審査会：2024年11月15日(金)
会場：JAビル(東京・大手町)
日時：2025年1月11日(土)
会場：浅草橋ビューリックホール

第49回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会／表彰式日程

